

隣人を愛すことを受け継ぐ：
若者こそが世界をより良い場所に変えられる
(原文は英語)

マリーナ・ラウラ・ソアレス・アセバド (14 歳)
ブラジル・リオグランデ・ド・ノルテ州
サン・ゴンサロ・ド・アマンテ・セシ中学校

祖母がこの世を去った瞬間から、私は、急に自分の一部が引き裂かれたように感じていました。祖母の死は私の心に虚しさを残し、かつて私の人生を占めていた安らぎは一筋の風のように消えてしまいました。祖母を亡くしたことで、さまざまな感情や困難な出来事が目まぐるしく押し寄せ、想像もしていなかったことが私の世界観を変えてしまいました。

祖母の存在は、尽きることのない良識や、愛、慰めの源泉でした。祖母は、たくさんの価値観を私に教えてくれました。それらは今でも私の支えとなっています。祖母と笑い合い、抱きしめ合い、深く話すことができなくなったと考えるだけで、打ちのめされた気分になりました。私の人生の愛する存在を失うという非常に悲しい出来事でした。

気が付くと、私は、何の指針も影響もなしに自分のアイデンティティを再構築するという課題に直面していました。非常に不安定な世界の中で、まだ 7 歳だった私は、自分の立場の不安定さに直面していました。祖母のベラ・ルシアは、他者への愛とコミュニティへの献身となる生きたお手本でした。彼女の関心は家族の枠にとどまらず、周囲の人たちすべてを心から大切に思っていました。その違いに関係なく、さまざまな人々とともに、寛容さと思いやりをもって喜んで彼らを受け入れていました。彼女の人々を歓迎するという気持ちのあり方、そしてまとめる能力は人々を奮い立たせました。彼女の行動と思いやりは今でも忘れられません。私は、祖母をお手本として、若者にとって平和な世界を築くには、差別することなく、お互いを愛し、すべての人を大切に思うことを心に誓うことから始める必要があると学びました。グループを一つにまとめ多様性を好意的に受け入れることでこそ、私たちは今以上に調和の取れた社会を築くことができます。そして、そのような社会では、それぞれが評価され仲間がいることを感じることができます。

幼少期や思春期に触れたこのような素晴らしいお手本によって、私は平和な世界の再構築は、隣人を愛し、差別することなくすべての人々を大切にすることを心に誓うことから始まるのだと分かりました。さまざまな人々を団結させ、人種や考え方、信仰、障害の有無に関係なくすべての人々を快く受け入れることで、私たちは調和の取れた、これまで以上に思いやりのある社会を築くことができます。そのような社会では、それぞれが評価され尊重されていると感じられます。

祖母を失ったことは私の安らぎの終焉ではなく、祖母から引き継がれたすべてを実践する成長の機会だったのです。私は、祖母の存在が私の根底に溶け込んでいるという確信することで慰めを見いだしました。なぜなら、私は彼女の血を引いていて、祖母が受け継いできたものが、祖母が見返りを求めずに接したすべての人と私を通じて生き続けているからです。失ったように思えた安らぎは、ゆっくりと改めて形作られ始めました。

現在の私の最大のモチベーションと願いは、抱きしめることなどの簡単な行動や慰めのメッセージや、家族とともに困窮している人々に寄付することなど、あらゆる方法で他者を助けようとする事です。なぜなら、小さなことが大きくなっていくからです。私たちの社会は、他者への共感が欠けていて、お互いをもっと愛し、相手の考えや他者の意見を共感することができなくなっています。2023年、私はあるプロジェクトのクラスリーダーになりました。これは私の学校で発展し、若者の自主性を促進し、若者が市民として社会に参加し責任感を持つことを目的としています。問題から距離を置き、ただの一人の若者でいるのであれば、私たちは自分たちの周りでどんなことが起きていてもそれほど心配しません。自分で責任を負い、先を思い描ける機会を得ることができたとき、若者がいかに確執と困難にあふれているかを認識できます。近年、平和は若者から奪われているため、私たちは結束が力を生むことを示す必要があります。私たちは人間であり一時の存在ですが、私たちが他者の人生に撒いたものは決して忘れられることはなく、私たちの炎は燃え続けます。そして私たちは、思いやりやプロジェクト、献身を通じて他者を鼓舞する存在になります。

この平和を構築する道のりにおいて、若者は主要な役割を担っています。若者は変化をもたらす主体であり、今以上に平和な世界の再構築について驚くべきアイデアや革新的なビジョンを生み出すことができます。私たちは新しい世代であることから、未来に再び過ちを犯さないように、過去の世代の過ちから行動を起こし、学ぶ必要があります。